

# 令和4年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	県南部の秋まきたまねぎ栽培に適する品種と定植時期			
[要約] 秋まき中晩生品種「もみじ3号」の10月中旬定植は腐敗や障害球が少なく、単収5tに達することから、県南部の秋まき栽培に適する。秋まき中生品種(「ターザン」「ターボ」等)は「もみじ3号」より収穫時期が10日前後早まるが、「もみじ3号」に比べて15%以上減収する。						
キーワード	たまねぎ	秋まき栽培	もみじ3号	園芸技術研究部 野菜研究室		

## 1 背景とねらい

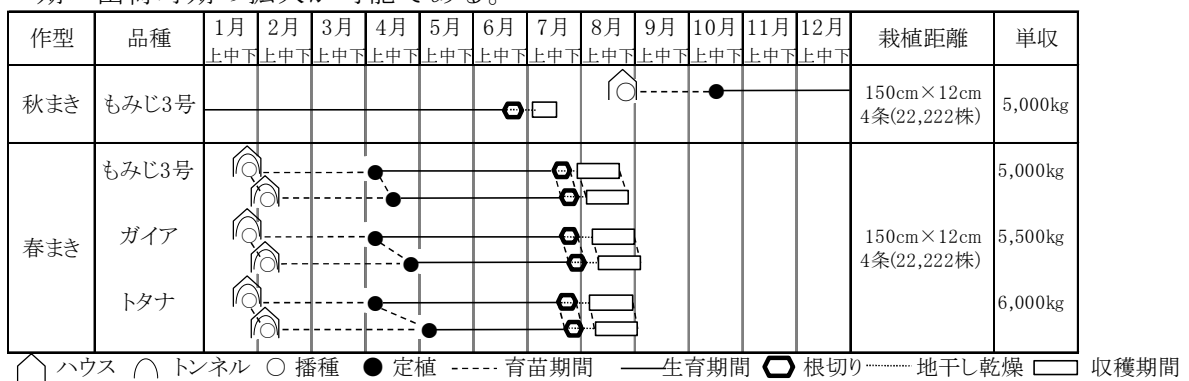
本県の気象条件はたまねぎの春まき栽培と秋まき栽培が可能となる、世界でも稀な特徴を有しているが、秋まき栽培では育苗の失敗や抽苔、越冬率の低さなどから、生産が不安定となる事例がある。また、県中北部の秋まき栽培では「もみじ3号」が適するが(参考資料1)、県南部における適品種や定植時期に関する試験は近年実施されていない(参考資料5)。

そこで、県南部における適品種と定植時期を明らかにするとともに、春まき栽培を組み合わせた栽培体系について提案する。

【令和2年度試験研究を要望された課題「秋植えたまねぎの安定生産技術」(全農岩手県本部)】

## 2 成果の内容

- (1) 秋まき中晩生品種「もみじ3号」は腐敗や障害球が少なく、収量確保水準の単収5tに達することから、県南部の秋まき栽培に適する(表1)。
- (2) 定植時期は10月中旬が最も適する(表1)。
- (3) 秋まき中生品種(「ターザン」「ターボ」等)の収穫時期は「もみじ3号」より10日前後早まるが、「もみじ3号」に比べて15%以上減収する(表1)。
- (4) 県南部のたまねぎ栽培体系は下図の通りであり、春まき栽培と組み合わせて収穫時期・出荷時期の拡大が可能である。



## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本試験は無マルチ栽培での結果であり、加工業務用の機械化収穫体系を想定したものである。
- (2) 育苗期間は50~60日を目安とする。育苗の詳細は参考資料2を参照のこと。
- (3) 秋まき栽培では連作による乾腐病の増加が懸念されるため、輪作や定植時の薬剤灌注に努める。また、べと病やネギアザミウマ防除のため、適切な薬剤散布を実施する。
- (4) 秋まき栽培における施肥量、施肥時期については他の試験研究成果書を参照のこと(参考資料3)。
- (5) 地干し乾燥作業を行う際の収穫開始の目安は春まき栽培を参考にする(参考資料4)。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県南部 農業普及員、JA営農指導員等
- (2) 期待する活用効果 秋まきたまねぎの適品種・定植適期を明らかにし、本県産たまねぎの収穫時期・出荷時期の拡大に寄与する。

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (R2-01)水田転換畑を活用した土地利用型野菜の安定生産技術の確立  
 (1000) 長期安定出荷のための水田たまねぎ栽培技術の確立 [R2~R4/県単]

## 6 研究担当者

横田啓、佐々木達史

## 7 参考資料・文献

- (1) 平成 30 年度岩手農研試験研究成果書「秋まきタマネギ栽培に適する品種と栽培上の留意点」
- (2) 岩手県、令和 4 年度野菜栽培技術指針 p.118-128
- (3) 令和 4 年度岩手農研試験研究成果書「秋まきたまねぎ栽培における基肥窒素量減肥の可能性と追肥開始時期」
- (4) 令和 3 年度岩手農研試験研究成果書「春まきたまねぎ栽培における地干し乾燥時の収穫開始の目安」
- (5) 平成元年度岩手園試指導上の参考事項「たまねぎ生食向け品種「ラッキー」の特性」

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 定植時期と品種が1球重、収量等に及ぼす影響(R3産・R4産 2カ年平均)

定植時期	品種名	過半数倒伏日		りん茎 横径 (mm)	りん茎 高さ (mm)	1球重 (g)	欠株 率(%) ****	腐敗 球率 (%)	裂皮 球率 (%)	外部 分球 率(%)	抽苔 率(%)	商品収量 (t/10a)**	備考
		R3産	R4産										
①10月上旬	オーロラ	6/6	6/13	86.1	72.4	266.7	1.7	7.3	4.3	0.5	17.7	4.32	乾腐・抽苔多
	W808	6/11	6/14	85.5	72.3	260.2	0	0	0.4	7.1	14.2	4.51	分球・抽苔多
	もみじ3号	6/13	6/21	84.2	75.8	270.1	1.4	0	0.8	0	4.5	5.56	抽苔やや多
	ラッキー	6/21	6/23	89.7	73.7	287.1	2.4	3.8	5.1	0.7	10.8	4.93	裂皮・抽苔多
②10月中旬	オーロラ	6/5	6/14	82.7	69.1	236.1	2.8	0.8	1.7	0	10.8	4.45	抽苔多
	七宝甘70	6/6	6/13	84.8	69.6	251.3	1.0	0.8	8.4	0.8	10.8	4.49	裂皮・抽苔多
	ターボ	6/5	6/12	79.3	67.2	212.6	0.7	0	2.1	1.1	1.7	4.45	やや小玉
	ターザン	6/6	6/13	78.0	70.1	214.5	0	0	0.4	0	0	4.73	やや小玉
	OP黄	6/6	6/12	77.5	68.8	206.1	0	0	0.4	1.5	2.1	4.35	やや小玉
	W808	6/13	6/17	82.0	69.0	235.4	0.7	0.8	2.1	3.5	2.1	4.76	分球やや多
	もみじ3号	6/17	6/22	82.2	72.3	248.9	0	0.8	0.8	0	0	5.44	
	ラッキー	6/23	6/25	89.2	70.6	280.2	0.3	5.0	10.4	0	1.0	5.28	腐敗・裂皮多
③10月下旬	もみじ3号	6/21	6/26	81.5	71.7	244.8	2.1	0	1.3	0	0.3	5.35	欠株やや増加
	ラッキー	7/1	7/1	87.9	67.9	264.7	3.8	6.7	21.8	0	0	4.04	腐敗・裂皮多
④11月上旬	もみじ3号	6/22	6/23	74.7	65.8	187.1	4.5	1.3	0	0	0.3	3.89	やや小玉、欠株やや増加
	ラッキー	7/2	6/30	85.5	65.2	241.4	8.0	2.5	25.0	0	0	3.56	欠株・裂皮多
⑤11月中旬	もみじ3号	7/12	6/28	60.5	52.4	112.1	50.7	0	0.6	0	0	0.97	小玉、欠株甚
	ラッキー	7/14	7/8	72.3	55.5	163.9	34.0	17.3	19.4	3.3	0	1.22	小玉、欠株甚、腐敗・裂皮多

※1区40球、3反復調査

※※規格外、欠株、腐敗球、裂皮球、外部分球、抽苔球を除いたもの

※※※生育が著しく劣る株も欠株に含めた

表1摘要:①「もみじ3号」の10月中旬定植は腐敗・裂皮・分球が少なく、単収5tに達するため、最も適する。  
 ②定植時期は10月中旬が最も良い(10月上旬定植は抽苔の増加、10月下旬定植は欠株の増加と収穫時期の遅延等を懸念)。③「ターザン」「ターボ」の収穫時期は「もみじ3号」より10日程度早まるが、「もみじ3号」に比べて15%以上減収する。④11月以降の定植は1球重が低下し、欠株率が増加する。  
 試験概要:試験場所は岩手県農業研究センター所内圃場。448穴ポットを用いて育苗し、育苗日数は約50日とした。本圃は畦幅150cm、条間24cm×株間12cmの4条植え(22,222株/10a)、マルチなしで栽培した。施肥については、基肥は9-18-9kg/10a、追肥は3月中旬~4月中旬に計3回実施した(追肥計10-4-10kg/10a)。過半数倒伏日の約10日後に収穫し、遮光幕(遮光率90%)をかけたハウス内で乾燥させた後、1球重、腐敗球発生率等について調査し、商品収量を算出した。